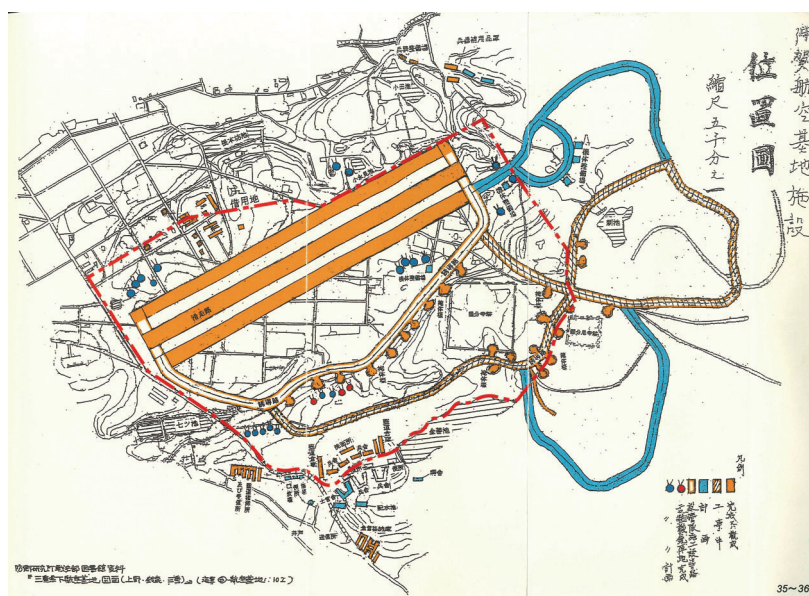


海軍伊賀上野航空基地跡



防衛研究所戦史部図書館資料
『航空基地図綴（本土関係）』（海軍⑤校区基地 83）

伊賀市では、「再び戦争の惨劇を繰り返さない」という想いから、平成 17 年に「非核平和都市宣言」、そして平成 20 年からは「平和首長会議」に加盟しています。

平和文化の構築に向け、戦争がもたらす悲惨さから平和の尊さを学び次の世代に紡ぐために「平和のサイン」を設置しました。

伊賀市



1942年4月18日、B25爆撃機16機により、東京・名古屋・四日市など広範囲に爆撃を受けました。また、戦況の悪化を受けて軍事基地の拡散と軍需工場の疎開が模索され、1943年当初に伊賀上野に海軍航空基地の建設が計画されました。零戦や雷電、一式陸攻などの航空機は、三菱重工名古屋航空機製作所でエンジンを、津工場で翼を、四日市工場で胴体と部品が製作され、鈴鹿の三菱重工三重工場で組み立てを行い、第二鈴鹿海軍航空基地の第1001海軍航空隊（通称：雁部隊）によって試験飛行が行われ、合格した航空機に装備が行われ各地に輸送されていました。

軍事基地の拡散のため伊賀上野航空基地を建設し、一式陸攻は試験飛行の後、合格すると伊賀上野航空基地に空輸し、通信機器を装備して次の基地へ空輸することが企図されました。

1943年10月、朝鮮人労働者で組織された「軍事基地建設協力隊」の500人と、朝鮮半島から連行されてきた労務者100人が掩体壕や横穴隧道等の掘削作業を進め、この工事は終戦の日まで続けられました。滑走路の整地や周辺整備の作業は、伊賀市内の住民が動員され、勤労奉仕によって行われ、1945年5月頃まで行われました。5月には滑走路がcaろうじて使用できるようになりました。

航空基地内の空き地は、豊国農場として開墾され、伊賀地域の中等学校生徒によるサツマイモの栽培等が行われました。

出典

田畑 孝一 『伊賀の軍事施設と戦災』